Vol.46
2014.10
October

京都 ケアマネ・ポート

KYOTO CARE MANE PORT

Contents

2　平成26年度 公益社団法人 京都府介護支援専門員会 定時総会報告
2　日本ケアマネジメント学会　第13回 研究大会報告
3　公益社団法人 京都府介護支援専門員会 組織図
4　第15回 近畿介護支援専門員研究大会　京都大会のおしらせ
5　サービス事業所インタビュー　～複合型サービスの実情と課題について～
6　山城ブロック活動報告
6　乙訓ブロック活動報告
7　広報部会の紹介
8　事務局からのお知らせ
8　編集後記

平成26年度

公益社団法人 京都府介護支援専門員会定時総会報告

平成26年６月28日（土）午後３時30分より、ハートピア京都３階大会議室にて公益社団法人京都府介護支援専門員会平成26年度定時総会が開催されました。

冒頭の挨拶で、井上会長は「来年の介護保険制度の見直しでは介護支援専門員にとっても新しい流れができつつあり『中立、公正、独立性』や『保険者の役割』等の私たちにとっても身近な議論がなされている。これから総論から各論に話し合われていく中で、京都府介護支援専門員会も日本介護支援専門員協会を通じて介護支援専門員会の職能をしっかり主張していきたい」と挨拶がありました。

報告事項として

報告事項 第１号　公益社団法人京都府介護支援専門員会代議員の選出について
報告事項 第２号　公益社団法人京都府介護支援専門員会平成25年度事業報告について
報告事項 第３号　公益社団法人京都府介護支援専門員会平成26年度事業計画について
報告事項 第４号　公益社団法人京都府介護支援専門員会平成26年度収支予算について
報告事項 第５号　ブロック委員規定について
報告事項 第６号　ブロックの運営に関する規定について

以上の報告がありました。

決議事項では、第１号　公益社団法人京都府介護支援専門員会平成25年度収支決算報告（案）についてが提出され、賛成多数の承認を受けて可決されました。

以上の内容で閉会となりました。ご多忙の中、ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

（編集委員　西村篤）

日本ケアマネジメント学会 第13回 研究大会報告

2014年７月19日・20日に燕三条地場産業振興センターメッセピア・リサーチコリアで開催されました日本ケアマネメント学会　第13回研究大会（新潟大会）に参加しました。

今回のテーマは、「すべての人たちのためのケアマネジメント～ソーシャルワークの視点で考える～」すべての住民が安全・安心で、かつ健康に地域生活が続けられるために、ケアマネジメントがどうあるべきかを考えることが主題となっています。本大会の記念講演では、大橋兼策先生（公益財団法人　テクノエイド協会理事長）から「地域でその人らしく生活していく～それを支えるために～」という題で、地域福祉におけるケアマネジャーの役割や課題を中心に講

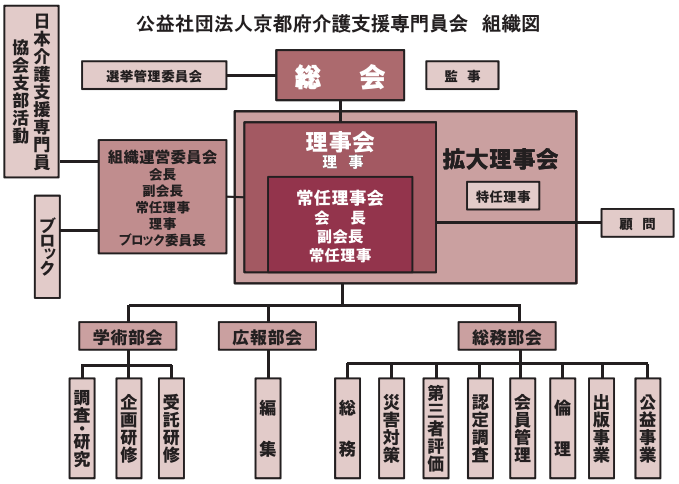
演されました。又、市民公開講座において新潟県在住の拉致被害当事者である蓮池薫先生（新潟産業大学准教授）から、「拉致という人権侵害～さまざまな家族への思い～」という題で講演がありました。その中で最も印象に残ったのは、「拉致は人権侵害である。」「拉致によって、命以外の全てを失い、夢を断ち切られてしまったが、帰国して12年たち、夢と家族の絆を取り戻した。」という言葉でした。

日本ケアマネジメント学会員による一般講演８分科会75演題の発表、ポスターセッション２分科会18演題の発表があり、日頃の実践や成果の発表の場となりました。

（理事　髙木はるみ）

公益社団法人 京都府介護支援専門員会 組織図

右記の組織構成で、今期は運営をさせていただきます。
各委員会では以下の内容で活動させていただきます。



【総務部会】

公益事業委員会：府民公開講座の企画運営、非会員・府民からの相談対応、関係機関との連携

出版事業委員会：書籍の出版企画と在庫管理、出版会社との連携

倫理委員会：会員資格の裁定、介護支援専門員の倫理に関する案件処理、個人情報に関する案件処理

会員管理委員会：会員数の増減管理、会費納入状況の確認、会員からの相談受付

認定調査委員会：事務受託法人の運営管理、認定調査員研修の企画運営、他の事務受託法人との連携

第三者評価委員会：第三者評価事業の運営管理、第三者評価の育成、第三者評価機構への協力

災害対策委員会：JRATの組織化、研修の開催

総務委員会：予算・決算の審議、規程等の見直し

【広報部会】

編集委員会：ケアマネ・ポートの発行、ホームページの運営管理、メールマガジンの発信

【学術部会】

受託研修委員会：更新研修・実務従事者基礎研修・専門研修課程Ⅰ・専門研修課程Ⅱ・主任介護支援専門員研修の企画運営

企画研修委員会：教養関連・制度関連・ケアマネジメント基礎・保健医療分野・福祉分野・認知症関連・施設ケアマネジメント・研究大会の企画運営

調査研究委員会：アンケート調査の実施

第15回 近畿介護支援専門員研究大会 京都大会のおしらせ

各府県持ち回りでの近畿大会も３巡目し、来年度は京都府が当番県として、平成28年２月19日（金）・20日（土）京都テルサにて、開催いたします。

現在、下記の実行委員にて企画・準備を進めておりますので、ひとことご挨拶を申し上げます。

実行委員　委員長　小林　啓治

ケアマネジメントの深化と介護支援専門員の真価を問う実りのある大会にしたいと存じます。参加して良かったと記憶に残る大会を是非、世界が認めた観光都市京都をご堪能下さい。

実行委員　副委員長　髙木　はるみ

近年､介護支援専門員を取り巻く情勢が刻々と変化し、介護支援専門員のもつ専門性の習得が求められているところであります。参加者の皆様に多くの学びをお土産にしていただけるような大会にしたいと思っておりますので、ふるってご参加くださいませ。２月の京都から、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

実行委員　甲田　由美子

昨今少子高齢化と合わせ、不況な情勢の中、地域において過ごしにくい人々が増加傾向にあります｡そんな中、様々な専門職の力を結集して適切な支援が行えるよう、皆様と学び合える場となる研究大会を目指します。

実行委員　瀧川　広治

介護支援専門員の研究大会に参加頂く方は多くの思いを持ち、現在ケアマネジャー業務に携わっている事かと

思います。京都大会では皆様と共に学んで成長し、参加する全ての方が成果（お土産）を持ち帰る事が出来る大会にしたいと考えております。

実行委員　橋本　かおり

前回の大会でお手伝いさせて戴きましたが、あの熱気と熱心さが今でも強く心に残っております。今回は前回以上の大会となると、すでに実行委員の会議の場から強く感じております。素敵な大会となる予感がします！

実行委員　堀田　裕

今年度は和歌山県で開催されますので、和歌山大会に参加し、京都大会に活かせるものを持って帰りたいと思っています。京都は観光名所だけでなく、ケアマネジャーも頑張っているんだということが、京都府民はじめ近畿圏内の方々にアピールできるような大会になるよう全力を尽くしたいと思います。

●協力員募集!!●

平成28年２月19日（金）・20日（土）の当日およびそれまでの準備にて、ご協力いただく「協力員」を募集いたします。活動にかかる交通費は実費にて費用弁償させていただきます。

京都のケアマネジャーによるケアマネジャーのための大会にするために、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。ご協力いただける方は、kinkitaikai@kyotocm.jp まで、会員番号と氏名をお送りください。

サービス事業所インタビュー ～複合型サービスの実情と課題について～

医療ニーズが高い人が、住み慣れた家や地域で安心して在宅療養が継続できるように、様々なサービスが整備されていることはご承知のことと思います。平成24年に「複合型サービス」が新設されました。理想的な支援体制の一つではありますが実際に運営している事業所は少ないのが現状です。そこで、京都市で初めて複合サービスを実施し、先駆的な活動をされている吉祥院複合型サービス「れんげそう」の皆様に実情と課題についてお話を伺いました。

Q：「れんげそう」の特徴を教えてください

A：多種の専門職がチームとして医療的ケアができることはもちろん特徴でありメリットですが、病院と併設していることで、往診機能があることから医療連携が取りやすいことでしょうか。医療スタッフも協力して支援できることで、本人、家族も安心して在宅生活を継続されています。医療ニーズが高い方は介護量も多くなる事が多く、利用者の平均介護度は要介護４で、高い介護度の方たちが、入院することなく、安心して在宅生活を維持されていることで効果が見られていると思います。通常なら在宅では病状の安定が困難とされていた方でも、できるだけ最後まで安心してご自宅で生活できるように心がけて支援しています。

Q：支援する中で印象深いエピソードを教えてください

A：事例：肺塞栓と同時に意識レベルも常時３ケタの方でしたがCVでインスリンとヘパリンを24時間点滴され、通常なら入院することが多いのですが、ご家族も自宅での生活をさせてあげたいと強い希望を持っておられたこともあり「れんげそう」を利用しながら在宅生活をされています。症状の悪化もトラブルも少なく利用されています。どんな状態になっても自宅での生活を希望されるなら実現してもらいたいですよ。

Q：今後の目標を教えてください

A：まずは経営管理をしっかり行うことですかね（笑）

いくら良いと思うサービスをしていきたいと思っていても経営がうまくできていないなら運営ができないですしね。

もちろんこれからも、医療ニーズが高い方でも在宅生活を希望されている方でも、入院せず自宅で、その人らしい生活が出来ることを目標にしていきたいです。

あとは、複合型サービスのニーズが増えていくといいですね。医療ニーズが高い方でも在宅生活が継続できるという事を知ってもらいたいです。そのためにも実績を作っていきたいと思っています。

Q：最後に京都府介護支援専門員会に期待することはありますか？

A：複合型サービスをケアマネジャーの皆様に理解していただき今後とも協力し合える体制を構築できるようによろしくお願いいたします。

取材者のコメント

今後、医療ニーズが高い方が在宅で増えていくと考えられるなか、医療と介護の融合は避けては通れない課題であることを再確認しました。ケアマネジャーも複合型サービスの必要性を再確認していただき、今以上に複合型サービス事業所が増え、在宅での医療と介護が地域で充分に受けられるシステムになる様に働きかけていくことが必要ではないでしょうか。

（編集委員　西村　篤）

山城ブロック活動報告

山城ブロックは宇治市、久御山町、八幡市、城陽市、京田辺市、井出町の４市２町を範囲とし、会員数は現在、186名です。ブロック内に救命救急センター（１箇所）や認知症疾患医療センター（２箇所）があり、在宅系・入所系施設も比較的整備されていますが、医療・介護の社会資源が不足しているエリアもあります。

平成25年度にブロック委員が一新し、現在５名体制。４市２町から各１名の選出に向けて今後も会員に働きかけます。

昨年は定例会議と資質向上研修に向けた準備を行いました。京都式オレンジプランが策定されようとしていた年度であり、認知症に関する研修会を開催する方向性を決定。今年２月、京都府立洛南病院認知症疾患医療センターとの共催で研修会「認知症にやさしい社会に向けてケアマネジャーができること、これからすべきこと」を開催しました。「介護支援専門員の皆様には、母や認知症の本人、そして私たち家族にとって良いと思われることを一緒に考え、一緒に探してほしい」という娘様の言葉、「認知症に対する疾病観を変え、今の社会には用意されていない支援体制や社会資源の構築も必要」という森俊夫先生の言葉、心に残る宿題となりました。

今後も会員の皆様からの要望にお応えし、価値ある研修を企画し親睦会や地域活動についても検討していきたいと考えています。

（山城ブロック委員長　北野　太朗）

乙訓ブロック活動報告

乙訓ブロックは、京都市の南西に接し、向日市、長岡京市、大山崎町の２市１町を範囲として半径５キロ以内に収まる地域で、面積は約33平方キロメートル、人口は約15万人です。昭和30年代後半から、京都・大阪都市圏のベッドタウンとして栄え、自然環境や歴史文化にも優れた近郊住宅都市です。JRや阪急電車が併行して走っており、新駅開設などや幹線道路をはじめ、交通面では恵まれています。

この地域には乙訓医師会があり、15年前から活用されている『在宅療養手帳』を連携のツールとして、多職種連携を図っています。医師会を中心として、認知症ネットワーク等をはじめ、「地域包括ケア」を目指して、医療・介護・福祉・行政等のあらゆる職種が連携するシステムがつくられています。

現在ブロックには、60名程の会員が加入し、年に２回程度研修会を開催しています。

昨年は、医療連携についての研修会を開催し、医師会より連携を上手く取るコツについて介護支援専門員に本音で語っていただき、その実践に取り組んでいます。

今後は、研修だけに留まらず、関係団体のシステムを利用し、地域包括ケアネットワークの一員としても活動できればと考えています。

（乙訓ブロック委員長　村上　雅代）

広報部会の紹介

主担当副会長

松本　善則

振り返りますと、もとはケアマネ・ポートだけであった情報発信媒体もメールマガジンや情報CDと多彩になり、発信される情報量も膨大になってきました。社会全体の仕組みもですが、こと介護支援専門員という仕事は情報収集とは切り離せないものであり、特に制度関連の情報のキャッチは今や、職業的指命でもあります。このような背景の中で、会員の皆様に少しでも有用な情報を、早くお届けできるよう頑張ります。

副担当副会長

小林　啓治

介護支援専門員にとって、介護保険に関らず、日本、京都府や市町村単位でも遍く情報が様々な媒体で入手出きる昨今において、京都府の介護支援専門員にとって“今”必要な旬の情報がお届けでき、会の活動も知っていただける一助になるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

主担当理事

柴田　崇晴

舞鶴市で海がきれいな地域を担当する地域包括支援センターで働いています。最近は、縦貫道も少しずつ繋がり、また特急列車も乗り心地がよくなり、京都市内に出向くこともそれほどストレスなく行けるようになりました。広報担当として、このケアマネ・ポートやメールマガジンなどを通じて、最近の動向や情報はもちろん、府内で活躍されている会員の声や地域の情報などもお届けできればと思っています。

副担当理事

髙木はるみ

広報部会の担当をさせて戴くことになりました。普段は、社会福祉法人京都福祉サービス協会小川事務所の居宅介護支援事業所に勤務し、京都市上京区内を自転車で訪問する日々を送っております。会員の皆様に役立つ情報を発信できる「ケアマネ・ポート」を心がけたいと思います。

編集委員長

西村　篤

昨年度に引き続き広報部会に携わることになりました。今後も会員の皆様や府民の皆様に有益で解りやすい情報発信を行い、変化し続ける介護保険制度や社会状況の情報を発信できるような委員会となるように尽力いたします。また、ケアマネジャーの皆様におきましても情報収集のアンテナを立てていただき、今後もケアマネジャー全体のスキルアップができる様に研鑽していけたらと思います。

編集委員

佐藤　弓子

福知山市内の一般急性期病院で、ケアマネジャーとMSWを兼務させていただいています。京都府はそれぞれの地域に独自の良さがあると思います。それが地域格差にならないよう、いざというとき頼りにできて、「あ、そういえば、あそこに書いてあったやん！」と、活用できるような情報が発信できればと思っています。不慣れですが頑張ります。

編集委員

中嶋　優

「介護支援専門員にとって情報は命である…」これはとある研修で講師の先生がおっしゃっていた言葉です。私自身、この言葉を日々の業務の中で実感していますので、新しいことや変化を敏感にキャッチできるメールマガジンやケアマネ・ポートを配信していきたいと思っております。また、普段は南丹市で勤務しておりますので、山間地が抱える課題などマクロな情報も提供できればと思っております。

事務局からのお知らせ

■ 第８回日本介護支援専門員協会全国大会 in 和歌山
第14回近畿介護支援専門員研究大会　和歌山大会

日　程：平成27年２月14日(土)～ 15日(日)
会　場：紀南文化会館（和歌山県田辺市）
※詳細は同封の要綱をご覧いただき、是非、ご参加ください。

■ 口座振替手続きについてのお願い

平成27年度以降の会費につきましては、全て口座振替をお願いしております。手続きがお済みでない会員様に「預金口座振替依頼書」を同封しております。

11月末までにご記入のうえ、必ずご返送ください。

◎口座振替のメリット

メリット１	メリット２
便　利	安　心
わざわざ金融機関等にお出かけになる手間が省けます。また、次年度以降も自動継続されるので便利です。	ご登録いただいた預金口座から自動的に払い込まれるので、支払忘れの心配がありません。支払履歴も通帳に残ります。

編集後記

介護保険制度が開始となり早14年が経過しようとしています。その間、幾度となく改定され、利用者にとってよい制度にブラッシュアップされている？と考えたいところです。ケアマネジャーの専門性も実務研修をはじめ、今必要とされるスキルについて学ぶ機会があります。

医療現場もケアマネジャー研修に負けず劣らず、各専門職とスキルアップの研修・研究が繰り広げられています。疾患治療が成功しても生活維持を行うには適切な生活支援が必要です。ケアマネジャーのスキルと医療専門職のスキル、速やかに病態評価、生活情報交換と、タイムスケジュールを立てながら実行していくことこそ、包括的な地域連携支援に結び付くものと考えます。医療と介護、どちらの現場においても英知を結集して利用者の自己実現・自立支援に奮闘していきましょう。

（理事　甲田由美子）

京都ケアマネ・ポート46号

2014年10月１日発行
発　行　人：井上　　基
編集委員長：西村　　篤
広報部会編集委員：柴田　崇晴　　髙木　はるみ　　佐藤　弓子　　中嶋　　優　　小林　啓治　　松本　善則
発　行　元　公益社団法人 京都府介護支援専門員会
〒604-0874　京都市中京区竹屋町通烏丸東入清水町375　京都府立総合社会福祉会館7階
TEL. 075-254-3970　FAX. 075-254-3971
E-mail:info@kyotocm.jp　　URL: http://kyotocm.jp/